

レンズクリーナーの想い出

杉浦 睦夫

レンズの曇り防止はガストロカメラの発明当初問題の一つであった。

最早あれから二昔にもなるが、私にはオリンパス光学の研究室で宇治先生とこの問題についてあれこれ工夫をこらしていた当時の想い出が鮮明だ。

宇治先生はガストロカメラの発想者である。現在は大宮でお父さんの遺された宇治病院の院長先生に納まっているが、当時は東大分院から私の研究室へ日参していた、それもチャンパー姿で……。

胃の中に入るカメラは先ず飽和水蒸気にさらされる。カメラは体温より冷たいからたちまちにして水滴に包まれる。

その次には、食道の粘液がまつわりつくだろう。

そしてカメラが撮影状態になったときは胃液をベツトリかぶったまゝ、胃の中に送り込まれた空气中に顔を出す、この空気も飽和に近い水蒸気を持った気体である。

やがてカメラは体温にまで暖まってくる……。こんな想定をした。

私は曾てサフォニンに防曇効果のあることを

文献で読んだ憶えがあった。早速、宇治先生に調べて貰った。ムクロジの実から抽出するとのことであった。ムクロジの実はお正月につく羽子板の羽根に使われる黒い玉である。早速黒い硬い実を手に入れて、破碎、抽出に及んだ。

結果は……、効果なし。

「あとになって判ったのであるが、サフォニンはムクロジの黒い実から採るのではなく、それを包んでいる半透明の果肉の部分から抽出しなければいけなかったのである」

また、シリコンに防曇性があると言うので、それも随分ひねくれた。

シロキサンのアンプルを真空ベルジャーの中で爆発させ、危く大ケガをしそうになったのもその頃であった。

思い余っていると、ふと、私は兵隊の頃、防毒面（ガスマスク）につけた防曇剤のことを思い出した。

当時鼻の頭に汗をかきかき一生懸命この仕事をやっていたくれた深海君に命じて、東京中の眼鏡屋と言う眼鏡屋をシラミツブシに廻って眼鏡用の防曇剤を探して貰った。

その当時深海君はオリンパスの諏訪工場から私の研究室へ転勤してきたばかりの新進気鋭

の若武者であった。

彼は九段の眼鏡店から棒状のものを見つけ出してきた。戦争中の残品とか、確かに見おぼえのあるものだった、実験してみたら仲々にい、結果だ。

私はガストロカメラの発売に当って、その眼鏡屋さんの在庫を全部買い占めることになったような気がする。

防曇剤即ちレンズクリーナーにはこんな古い想い出がある。

又これは数年前のことであるが、在独の大島先生がシンドラー博士を訪問された「ドイツ便り」が内視鏡学会誌に載っていたことがあった。さすが胃鏡の草分けであるシンドラー博士である。真先に胃カメラのレンズの曇り防止を日本ではどうしているかと、開口一番質問されたそうだ。そして日本でのこの問題解決のあざやかさに心から賞賛されたとか。

私は同じ道を歩んだ研究者同志として、「やっぱり彼も苦労したな」と思わずニヤリとした。それと共に異国の全くお目にか、ったことのない、そして永久にお目にか、ることも出来ないシンドラー博士ではあるが、既知の先輩のような気持になった。

昭和四七年夏記